

授業科目区分	授業科目名	授業方法	単位	時間	関連の深い授業科目
専門	柔道整復学総合1	講義	4	80	基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、解剖学、生理学
学科・学年	担当教員名	科目関連実務経歴	実務経歴・分野・授業科目との関連等		
柔整科・3年生	小澤恵美・浦田輝彦	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
授業目標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示					
<p>1年生・2年生で学んだ柔道整復学の総論・各論を臨床現場活用兼、国家試験対策として、1つの疾患や外傷から枝分かれたキーワードを引き出せるようにする。知識の向上と共に応用力を身につける。</p> <p>柔道整復術を習得するための礎となるべき基礎医学知識の構築を目指す。臨床的判断力や施術技術を的確に行うため、そのベースとなる基礎知識が重要となる。基礎医学知識のもと、医療画像(特に超音波画像観察装置)を学び、応用学習へと進む。</p>					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>1つの疾患や外傷ごとのキーワードを授業の中、または配布資料の中で伝えます。実際の臨床現場では、患者が訴え主訴より、いくつか選択肢が検討できることが重要となります。よって、重要となるキーワードやポイントを押さえ、臨床現場において自分の基盤に繋がるよう、関連するキーワードやポイントを押さえましょう。また、キーワードは国家試験問題(特に長文問題など)の出題分と一致します。国家試験問題の選択肢選定に活かす知識にも繋がります。</p>					
教科書・参考書					
教科書: 全国柔道整復学校協会:「柔道整復学(理論編・実技編)」・「解剖学」・「生理学」・「外科学」「整形外科学」					
受講時留意点、その他					
<p>【 全科目受講時共通事項 】※詳細は学生便覧受講における遵守事項参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 病気その他止むを得ない事由以外での欠席はしないこと。</li> <li>● 授業開始5分前には所定教室で待機し、指定された席で授業を受講すること。</li> <li>● 授業中は私語、および授業内容に関係のない行為は自粛すること。</li> <li>● 授業中の電子機器の使用は禁止する。但し、担当教員から許可を得た場合はこの限りではない。</li> <li>● 当番は授業前後の準備、整理を行うこと。教室、実習室の整理整頓、採光、換気、節電に努めること。</li> </ul> <p>※注意 授業開始時間後の入室は職員室にて「授業開始後入室における聴講申請書」を記入し、記入した用紙を担当講師に手渡して下さい。授業の聴講は許可しますが、出席簿は「欠席」扱いとなります。(公共交通機関遅延により遅延証明書がある場合のみ出席とみなします)。</p> <p>【 受講科目受講時留意点 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プrintの再配布は原則しません。きちんと保管しておくこと。</li> </ul>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	80	定期試験を行い評価する。(前期試験・後期試験を実施する。)			
その他	20	小テストを行い評価する。			
(合計)	100				

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
1		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷の循環器系疾患との関連① 運動器と循環期の機能解剖の復習		/	小澤恵美
2		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷の循環器系疾患との関連② 運動器と循環器の生理機能の復習		/	小澤恵美
3		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷の循環器系疾患との関連③ 運動器疾患と鑑別を要する心疾患の特徴を覚える。		/	小澤恵美
4		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷の循環器系疾患との関連④ 運動器外傷と鑑別を要する脈管疾患の特徴を覚える。		/	小澤恵美
5		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷の循環器系疾患との関連⑤ 運動器外傷と循環器疾患に類似する身体症状 を覚える。		/	小澤恵美
6		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷と呼吸器疾患との関連① 運動器と呼吸器の機能解剖の復習		/	小澤恵美
7		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷と呼吸器疾患との関連② 運動器と循環器の生理機能の復習		/	小澤恵美
8		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷と呼吸器疾患との関連③ 運動器疾患と鑑別を要する気管・気管枝疾患の 特徴を覚える。		/	小澤恵美
9		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷と呼吸器疾患との関連④ 運動器疾患と鑑別を要する肺疾患の特徴を覚 える。		/	小澤恵美
10		<b>柔道整復師の業務範囲</b> 運動器外傷と呼吸器疾患との関連⑤ 運動器外傷と呼吸器疾患に類似する身体症状 を覚える。		/	小澤恵美

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
11		<b>柔道整復学 総論(骨折)</b> 運動器外傷の際の全身の生理的変化① 骨折時の全身症状を引き起こす生理機能を理解する。		/	浦田
12		<b>柔道整復学 総論(骨折)</b> 運動器外傷の際の全身の生理的変化② 骨折時の全身症状を引き起こす生理機能を理解する。		/	浦田
13		<b>柔道整復学 総論(脱臼)</b> 運動器外傷の際の全身の生理的変化③ 脱臼時の全身症状を引き起こす生理機能を理解する。		/	浦田
14		<b>柔道整復学 各論(脱臼)</b> 骨折時の生理的変化・身体反応① 骨折時の身体反応の機序を説明できるようにする。		/	浦田
15		<b>柔道整復学 各論(軟損)</b> 軟損時の生理学的変化・身体反応② 軟損時の身体反応の機序を説明できるようにする。		/	浦田
16		<b>柔道整復学 各論(上肢の外傷)</b> 上肢外傷時の生理学的変化・身体反応①		/	浦田
17		<b>柔道整復学 各論(上肢の外傷)</b> 上肢外傷時の生理学的変化・身体反応②		/	浦田
18		<b>柔道整復学 各論(上肢の外傷)</b> 上肢外傷時の生理学的変化・身体反応③		/	浦田
19		<b>柔道整復学 各論(上肢の外傷)</b> 上肢外傷時の生理学的変化・身体反応④		/	浦田
20		<b>柔道整復学 各論(下肢の外傷)</b> 下肢外傷時の生理学的変化・身体反応①		/	浦田

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
21		柔道整復学 各論(下肢の外傷) 下肢外傷時の生理学的変化・身体反応②		/	浦田
22		柔道整復学 各論(下肢の外傷) 下肢外傷時の生理学的変化・身体反応③		/	浦田
23		柔道整復学 各論(下肢の外傷) 下肢外傷時の生理学的変化・身体反応④		/	浦田
24		柔道整復学 各論(体幹の外傷) 体幹外傷時の全身症状①		/	浦田
25		柔道整復学 各論(体幹の外傷) 体幹外傷時の全身症状②		/	浦田
26		柔道整復学 各論(体幹の外傷) 胸腹部疾病との鑑別①		/	浦田
27		柔道整復学 各論(体幹の外傷) 胸腹部疾病との鑑別②		/	浦田
28		柔道整復学 各論(体幹の外傷) 腰背部疾病との鑑別①		/	浦田
29		柔道整復学 各論(体幹の外傷) 腰背部疾病との鑑別②		/	浦田
30		柔道整復学 鑑別が必要となる疾病 復習		/	浦田

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
31		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置の原理		/	浦田
32		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置の注意事項		/	浦田
33		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置の使い方		/	浦田
34		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置(上肢観察法)		/	浦田
35		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置(肘関節観察法①)		/	浦田
36		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置(肘関節観察法②)		/	浦田
37		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置(下肢観察法)		/	浦田
38		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置(膝関節観察法)		/	浦田
39		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置(足関節観察法①)		/	浦田
40		柔道整復理論(治療法) 超音波画像観察装置(足部観察法②)		/	浦田